

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3871400275
法人名	医療法人 竹林院
事業所名	グループホーム 竹の園
所在地	愛媛県西予市野村町野村12合106番地
自己評価作成日	平成24年8月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 24 年 9 月 3 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設の近くの土手は利用者や近隣者の散歩コースにもなっていて、環境にも恵まれ田畑の緑に囲まれている。外出を楽しみにしている利用者のため、計画的に食事会やドライブをしています。当グループホームは医療機関を中心とした多くの介護施設の一部なので、利用者にとって多くの方との出会い、娯楽、リハビリ、教養の機会を持っています。音楽療法などはデイサービスで楽しみ、グループホーム間では相互のレクリエーションで人間関係を作ります。訪問看護のサービス提供で介護職員が安心出来、利用者にとっても最後まで穏やかに過ごせる場所となっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の母体は医療法人であるため、利用者の健康管理や緊急時の対応等は病院と緊密に連携が図られており、利用者と家族は安心感がある。利用者や職員には地元出身者も多く、家族のような温かい雰囲気がある。職員は利用者一人ひとりに合ったケアが提供できるよう心がけ、笑って過ごせるように支援している。管理者と職員の関係も良く、笑顔で利用者に接している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム 竹の園

(ユニット名) 1 階

記入者(管理者)

氏名 清水 勝美

評価完了日 平成 24年 8月 15日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 職員一人、一人に対して当所の理念を理解して実践につながるような話合いを持って居ます。	
			(外部評価) 職員全員で作成した理念は、いつも意識できるよう玄関やホールに掲示し共有している。ミーティングで理念に基づいたケアができていないか、振り返りや再確認をしながら日々の実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 周囲の地域の方とは、何時も挨拶を欠かさず会話などしています。納涼祭にも招待したり、保育園との交流もします。	
			(外部評価) 近くに児童館があり子供と日常的に交流がある。事業所に隣接する畑で農作業をしている地域住民と声をかけ合っている。地域に貢献する取り組みについて模索している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 納涼祭への招待や、踊り、演奏会などを通じて交流を図っています。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 学識経験者や地域の有志の方など、日頃より警察署長 にも貴重なアドバイス、ご意見を頂き施設の方向を見 直す機会にしています。	会議で幅広い意見がもらえるように参加者の構成に工夫したり、出された意見をサービス向上に活かす取 組みに期待したい。
			(外部評価) 運営推進会議は同法人の事業所と合同で開催していた が、単独で開催するようになった。近くの交番に利用 者の見守り等をお願いしており、さらに会議への参加 も依頼する予定である。現場職員の参加もできるよう 検討している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くよう に取り組んでいる	(自己評価) 普段から市役所担当者との情報交換を行い相互に理解 している関係にあります。運営推進会議にも出席頂い てます。	
			(外部評価) 市担当者とは運営推進会議を通して利用者を支援する 上での課題等について相談したり、事業所内での研修 を依頼することもある。何でも気軽に相談できる関係 を構築している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束は全く行ってません、そのような環境は作ら ない様にして、職員が人権侵害の意味を把握し、安全 確保に努めています。	
			(外部評価) 職員全員が身体拘束の弊害などについて正しく理解 し、拘束しないケアを実践している。気になる行為に 関しては、その都度職員同士で話し合い確認してい る。研修等で勉強したことはミーティングで報告し全 員で共有している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 利用者の人権を大切にする事は、職員として当然のことである、虐待につながるような事でも、早く気づき防止出来る様努め、研修会などに参加し意識を高めています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 権利擁護の研修会に積極的に参加して、研修資料を職員に公開します。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時は家まで行き家族や関係者と出会い、施設の方針など説明しご本人の納得の上で希望の生活を設計する説明をします。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 月間報告書には日常の生活状態や職員異動、外出、イベントなどを記載報告して、尚、ご家族のご意見を頂く様にメモなどの送付もしています。 (外部評価) 地元出身の利用者が多いため面会が多い。家族の面会時や家族会の開催時に意見や要望を聞くように努めている。出された意見や要望等はミーティングで検討し、運営に反映させている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 月1の職員会、主任者会、幹部会などの会議が有りその会議内容は職員に伝え、個人的にも施設長との直接面談があり意見の述べる事が出来ます。	
			(外部評価) 月1回職員会を開き、意見や要望を出し合っている。管理者は職員と面談を行ない意見等を聞き取ったり、職員と共に介護にあたり、気づきや提案について話しやすい関係を築いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 職員の資格取得には代表者が意欲的に勧めている、資格手当がある。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 県GH研修会、認知症対応の研修会など、1年に3回以上は研修会に参加し勉強している、県GH研修会より3年連続の表彰を受けている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 近隣のGHと交流に参加に、デイサービスとの音楽療法、月1回の勉強会などに参加し相互研修などの報告をしている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入居者、利用者を中心とした理念を大切に、笑顔と優しさで寄り添い出来ない事にソット手をさしのべてます。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入所までに自宅訪問し家族や住居地周辺の事を聞き、施設にも見学して貰い話合い納得してもらう。職員全員にも入居者の事が解るようにしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 入所前から本人、家族の生活の希望などは、一つでも多く達成出来る事をプランに加える。要望は出来るだけ受け入れてのサービスに取り入れるよう心掛けている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 一緒に過ごし、学び支え合う関係であり、人生の先輩として話しを聞く、教えて頂くを心がけている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族交流の場として、お花見、納涼祭など行っている、自宅の外泊など家族と笑顔で過ごせる関係を作ってもらおう。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 外出、ドライブ、地方祭などの参加により楽しまれる。毎月に施設便りも発行して家族、遠くの子供にも送付する。知人、友人には折りに来訪をお願いする。 (外部評価) 利用者の大切にしてきた馴染みの人や場所の情報を把握している。地方祭への参加など外出やドライブを兼ねて馴染みの場所に行くようにしている。母体である医療機関に受診に行った際は、地元の顔見知りの方に会えるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) なるべく、一人の人に付きっきりにならないようにしている、利用者同士で助け合って支援してゆくよう努める。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) サービスが終了しても家族からの相談を聞いたり、生活してる住居や施設に何度も面会に行き、声掛けや励ましの言葉を掛けている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 利用者一人一人の細かい事まで意見を聞き、みんなで話あい、趣味や体の不調などの解決で本人の希望が達成できるように意見交換してゆく。	
			(外部評価) 入居の際、利用者や家族に思いや意向を聞いている。また、日々のかかわりの中でも声をかけて、希望等の把握に努めている。管理者は、日常のケアの中で印象的な利用者の言葉をノートに書きとどめ、一人ひとりの思いを大切にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入所前の自宅訪問や、本人、家族の生活環境を見せて貰い。利用者の馴染みの関係を築きながら、利用者がやすらかに過ごせるよう捉えてゆく。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 利用者のできる事、理解できることを生活のなかで発見してゆくよう努める。日内変動する心身の変化を記録すると共に、スタッフで共有できる場を持つ。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 毎月のモニタリング、毎日の申し送り、面会時の家族意見、日常の本人の生活状態を検討し、本人の意見や家族の意見などを出し合い作成する。	
			(外部評価) 担当者が中心となり、利用者や家族の意向を聞き、職員全員で話し合っって計画を作成している。毎月モニタリングを行い、必要に応じて見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 利用者、一人、一人の日々の様子を観察、職員間で利用者の変化する生活を基に自立出来るなどを喜びに変える様に検討してゆく	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 地域資源や環境を含め多くのサービスの中から、その人にふさわしい、その場のニーズに応じて支援の方法を備え活用してゆく。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 周囲の保育園、自童保育施設とのつながりや、利用者を支えているボランティア、病院などの把握をし、地域の方の力を借りて取り組みの支援をする。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 定期的を受診し、日頃の様子を主治医に伝え連携して いる、急変時も受診される。	
			(外部評価) 地元の公立病院が利用者のかかりつけ医となってお り、母体である医療機関と協力、連携をしながら健康 管理が適切に行われている。皮膚科等の専門医につい ては、家族の協力を得ながら希望する病院に受診でき るようにしている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 看護師が定期的に訪問している、看護師に利用者の一 人一人の近況等を報告、相談をしている、毎朝、看護 師にも利用者の様子を見に来てもらっている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時、入院中も毎日面会に主任や担当医との情報を 交換し入院経過を職員に伝達している。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 家族、医師、看護師、介護士など関わる全員で病気の 説明や今後の介護、治療などが家族の意向に合うよう 話あっている。	
			(外部評価) 重度化や終末期の方針について、入居の際に利用者 と家族に説明し意向を確認している。利用者や家族の希 望に添えるよう、地元の公立病院の協力を得ながら職 員全員で取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 消防職員の指導を受け、緊急時、応急手当、初期対応など講習を受けている。施設間の勉強会などで専門指導者を招き実技指導を受ける。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回の消防訓練、避難訓練を実施、地域への防災組織へ災害時の依頼もしている。 (外部評価) 日頃から職員全員で防災意識を高めるように努めている。年2回避難訓練を行っているが、職員だけの避難誘導は限界があるため、地域の協力が得られるよう運営推進会議を活用して呼びかけている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 研修会などに参加し、初回訪問の時から本人、家族を尊重し個人情報の保護確認や、日常業務の中からつくりあげるよう話合っている。 (外部評価) 日常のケアにおける声かけや対応、トイレ誘導時や入浴時など、利用者一人ひとりの尊厳やプライバシーに配慮している。地元出身の職員が多いので、方言で話すことにより利用者が安心できる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 本人の希望に応じた支援をしているが、希望が言えない利用者は家族にも相談を持ちかける。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 毎日の申し送りなどで。本人の行動や言動を細かく検討し活動しやすくする方法を探っている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 洋服を自分で選んで頂く、訪問美容などは理容、美容で頭髪を整え外出、外食などを楽しんで頂く。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 季節季節に利用者のリクエストを聞き、外食したり、日頃より食べたい料理や好物を把握し食卓に配膳出来る工夫をしている。	
			(外部評価) 利用者のリクエストをメニューに取り入れている。敷地内で採れた野菜が食卓を飾ることも多い。職員と利用者が同じテーブルを囲んで、楽しく食事ができるよう配慮している。月1回の外食も利用者の楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 定期的な体重測定や主治医の指示を受けている尿量や回数など注意している、夏には水分補給などで精神的にも落ち着くよう支援している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後は口腔ケアを行い義歯除菌、コップ、歯ブラシの消毒を行っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 利用者の一人一人の排泄パターンを理解しており立ち上がりや拭き取りなど出来ない事の支援、紙パンツの減少に努めている。	
			(外部評価) 日中は利用者の様子を敏感に察知し、トイレ誘導している。紙パンツを使用しながら、トイレで排泄できるよう支援している。便秘傾向の利用者は排泄チェック表に記録し便秘対策をしている。トイレ内は転倒防止や立ち上がり動作がしやすいように、手すり取り付けられ安全に配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 食事量に注意し、毎日のトイレ誘導の声掛け、医師の指示で薬の調整などを個別に行っている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴の順番など、本人の希望を聞いたり行事などの関わりなどで気分良く楽しんで頂く、入浴出来ない時は全身清拭や足浴なども行う。	
			(外部評価) 利用者が入浴を楽しみにできるように、入浴希望にはできる限り対応している。入浴が苦手な利用者には声かけや対応を工夫し、場合によっては全身清拭や足浴などで対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 希望や、その時の状態を見て換気、空調などを活用し気持ち良く過ごせるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 本人と薬袋の確認をし、誤薬や飲み忘れがないように気をつけている。便秘薬での服用の調整もしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 一人一人の生活歴から馴染みの遊びや話などを聞き出し、その人らしい毎日が楽に送れる様に支援している。音楽を聴いたり歌ったりする。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 本人の希望や、その日の体調、天気などに合わせて、ドライブ、外食へ出かけている。自宅見学などもドライブ中にする。	
			(外部評価) 近くに児童館があり、イベントなどに頻回に見学に行っている。児童館の近くに花が栽培されており、散歩を兼ねて見に行くことを楽しみにしている。外食やドライブなど戸外に出掛けられるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) ほぼ全員の方がお金の管理が出来なくなっており、職員や家族と相談の上、一部所持されたり買い物されたりする。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人の希望により電話で自分でお話されたり、手紙も職員の代筆で交流されています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 季節の花を生けている、ホールに出れない利用者には居室へ花を飾ります。玄関、ホール、居室には外出や誕生日の写真を飾ってはっている。壁掛けの飾りも季節ごとに換えている。	
			(外部評価) 明るいきりびんぐにはソファが置かれ、それぞれが思い思いの場所でくつろぐことができる。懐メロを流すなど、利用者が楽しく過ごせるよう工夫している。外出時に撮った利用者の写真などを壁に飾っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 利用者同士が団欒を持てるように、家具やラジカセテーブルなどの設置をしている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居室ドアに自室が解りやすく名札や本人の写真を貼っている、使い慣れた家具を持参され落ち着いた雰囲気作りをしている。	
			(外部評価) 居室の窓からは田んぼが見え、季節を感じるができる。ベッドと布団、エアコンは備え付けである。利用者に合わせて畳床も用意されている。利用者が居心地良く過ごせるよう、家族の写真や使い慣れた物が持ち込まれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 必要に応じ手すりを設置したり、歩行器、PTなど使用の際など、危険防止に注意し、出来るだけ自力で動ける様にしている。	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3871400275
法人名	医療法人 竹林院
事業所名	グループホーム 竹の園
所在地	愛媛県西予市野村町野村12号106番地
自己評価作成日	平成24年8月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 24 年 9 月 3 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

季節を感じて頂く様に、その時期に応じて外出し、その外出先では好きな食事が出来ます。日中はホールで過ごされる事が多く、自分のペースやスタイルですごされます。同施設の他グループホームやデイサービスとの交流も定期的開催されます。又、近所の保育園児と一緒に竹の園の皆の農園でジャガ芋堀をして、子供の元気で明るい歌声や芋堀を楽しみ、握手やお歌のお返しを頂き元気を沢山もらいます。又、隣の児童保育の子供達には魚や、昆虫とりの様子を目の前で見て頂き充実した時を過ごされます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の母体は医療法人であるため、利用者の健康管理や緊急時の対応等は病院と緊密に連携が図られており、利用者や家族は安心感がある。利用者や職員には地元出身者も多く、家族のような温かい雰囲気がある。職員は利用者一人ひとりに合ったケアが提供できるよう心がけ、笑って過ごせるように支援している。管理者と職員の関係も良く、笑顔で利用者へ接している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム 竹の園

(ユニット名) 2階

記入者(管理者)
氏名 清水 勝美

評価完了日 平成24年8月15日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 理念に添っている介護なのか、職員同志で話あったり、近隣の付き合いを密にしながら、利用者の思いを大切に、落ち着いた生活の場を提供出来るようにしている。	
			(外部評価) 職員全員で作成した理念は、いつも意識できるよう玄関やホールに掲示し共有している。ミーティングで理念に基づいたケアができているか、振り返りや再確認をしながら日々の実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 保育所、学童保育の児童の訪問、散歩、通院時、納涼祭、運動会など会話やふれあいなどの交流が出来ます。	
			(外部評価) 近くに児童館があり子供と日常的に交流がある。事業所に隣接する畑で農作業をしている地域住民と声をかけ合っている。地域に貢献する取り組みについて模索している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 訪問して頂くボランティアの方、ご近所、部落の方には直接会話などして頂き情報の交換を行います。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 利用者、地域の有識者などを交えて話し合い、意見交換、避難訓練等を見てもらいサービス向上に繋がっている。	
			(外部評価) 運営推進会議は同法人の事業所と合同で開催していたが、単独で開催するようになった。近くの交番に利用者の見守り等をお願いしており、さらに会議への参加も依頼する予定である。現場職員の参加もできるよう検討している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 幹部会、職員会には市職員の介護に関する状況説明や、日常からの市の状況、介護の状況などで情報交換が出来る。	
			(外部評価) 市担当者とは運営推進会議を通して利用者を支援する上での課題等について相談したり、事業所内での研修を依頼することもある。何でも気軽に相談できる関係を構築している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 研修会などに積極的に参加し拘束しないケア、利用者の安全を守りながら生活の支援を行っている。	
			(外部評価) 職員全員が身体拘束の弊害などについて正しく理解し、拘束しないケアを実践している。気になる行為に関しては、その都度職員同士で話し合い確認している。研修等で勉強したことはミーティングで報告し全員で共有している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 職員会、勉強会に参加し研修を受けて、介護には常に虐待ゼロに努めマニュアルなどが設置されている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	(自己評価) 利用者の金銭管理など、家族や包括支援センター社協などで実際に必要な制度について学び職員会で確認や検討をする。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入所前から関わりのある多数の事業者と連絡し、情報の取得に努力して、本人を含め家族の方にも納得頂く様説明している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族への連絡、相談、要望、意見の記録を設けて、個人のサービスや施設全体の向上に繋げる。	
			(外部評価) 地元出身の利用者が多いため面会が多い。家族の面会時や家族会の開催時に意見や要望を聞くように努めている。出された意見や要望等はミーティングで検討し、運営に反映させている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 施設長などと、勉強会、カンファレンスなどで意見を出し合い、より良い介護をめざし努力している。	
			(外部評価) 月1回職員会を開き、意見や要望を出し合っている。管理者は職員と面談を行ない意見等を聞き取ったり、職員と共に介護にあたり、気づきや提案について話しやすい関係を築いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 年1回の施設長との直接面談や職員も意見があればいつでも意見を述べる機会がある、向上心を持って労働時間以外で資格の取得に努めてる	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 勉強会、カンファレンスなどで意見を出し合い、より良い介護をめざし努力している。カンファレンスで意見交換をしている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 近くのグループホームやデイサービスと交流し、良いところは取り入れ、質の向上に努める。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 家族や、本人からの情報、生活歴を聞き、環境など沢山の情報を得るため家にまで行き出来るだけ多くの情報を得ている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 自宅、生活場など訪問している、異なった環境で本人の戸惑いを減少し家族や本人の要望を達成できるよう入所直前には、事前に職員にも理解して介護情報を共有する。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 利用者や家族が不安な時は多くの事例などを集めて、例題や成功例を参考に本人の希望などを聞きながら、工作、習字など得意分野をサービスに生かせる。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 本人の出来る事を一緒に行い、暮らしと共にする関係を深めながら自立への道を探す。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会などでは一言でも多く感じられた意見や要望を聞き、一つでも多く答えに応じられるよう心がけている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 理美容など本人の行きつけを利用したり、イキイキサロンなどは帰宅して馴染みの関係を続け、以前に住んで居た部落周辺の行事にも参加出来るよう支援している。 (外部評価) 利用者の大切にしてきた馴染みの人や場所の情報を把握している。地方祭への参加など外出やドライブを兼ねて馴染みの場所に行くようにしている。母体である医療機関に受診に行った際は、地元の顔見知りの方に会えるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 日中は共に、皆で過ごせる場所を作り、利用者同士が関わり支え合っている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退所された方や、その家族にお会いする事がある時は職員から声掛けするよう努めている。退去後の住居地に逢いにゆき声掛けや近況の交換をする。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 月1回のカンファレンスの際に希望、意向の把握に努め、残存能力を活かし可能性や喜びを感じてもらおうよう支援。	
			(外部評価) 入居の際、利用者や家族に思いや意向を聞いている。また、日々のかかわりの中でも声をかけて、希望等の把握に努めている。管理者は、日常のケアの中で印象的な利用者の言葉をノートに書きとどめ、一人ひとりの思いを大切にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 初期対応の時から、家族の方からは、今までの生活状況をお聞きし住居地の環境などを考慮し、馴染みの暮らしが出来る様に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一人一人の心身状態を把握し利用者が出来ない時に手を差し伸べる。日々の活動や意向は個別ケアに記録し申し置くおくりで共有し活用する。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 本人や家族の要望を聞き、職員会やカンファレンスでおおきの情報を提供でき、本人の出来ない事など見極めをプランの参考に使っている。	
			(外部評価) 担当者が中心となり、利用者や家族の意向を聞き、職員全員で話し合っって計画を作成している。毎月モニタリングを行い、必要に応じて見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個別ケアの記録を活用し、情報を共有、介護での計画の見直しに活用して生活の向上をめざしている。薬、排泄、バイタルなどは毎日の申し送りの重要な共有情報としている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 外出、外泊、買い物など急な要望にも敏速に柔軟に対応、地域資源を活用し多くの方との関係を大切にしている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 近隣の保育所、児童保育所との交流をしながら、安全に暮らし楽しめるよう支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 本人、家族の意見で病院受診を支援し家族にも検査結 果や情報を報告する。	
			(外部評価) 地元の公立病院が利用者のかかりつけ医となってお り、母体である医療機関と協力、連携をしながら健康 管理が適切に行われている。皮膚科等の専門医につい ては、家族の協力を得ながら希望する病院に受診でき るようにしている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 系列病院の看護師の定期訪問などで、相談や市の病院 などの受診の相談もしている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院中には毎日、洗濯物を取りにいたり、補充した り。声かけや会話、食事介助なを行い、看護師さんから 情報を頂く。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 契約時点からターミナルの説明をします、体調を医者 や看護師と検討しながら看取りの介護を細かく説明し 家族の要望を聞きながら相互に協力支援の方向を職員 とも共有してゆく。	
			(外部評価) 重度化や終末期の方針について、入居の際に利用者 と家族に説明し意向を確認している。利用者や家族の希 望に添えるよう、地元の公立病院の協力を得ながら職 員全員で取り組んでいる。	終末期の支援のあり方について、勉強会や研修会等 で知識を高めて職員全員で共有し、よりよいケアが行 われることに期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 研修会などに積極的に参加し消防署の方の指導などを交えて実力をつけながら、急変時も不安無く対応できるようにしている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 日頃より全職員で情報による対応を市、地域、消防署などで研修し、実力をつけいる。 (外部評価) 日頃から職員全員で防災意識を高めるように努めている。年2回避難訓練を行っているが、職員だけの避難誘導は限界があるため、地域の協力が得られるよう運営推進会議を活用して呼びかけている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 研修会などに参加し本人、家族を尊重し個人情報の意味や行使の注意など、日常的に考えて介護するよう注意の呼びかけをしている。 (外部評価) 日常のケアにおける声かけや対応、トイレ誘導時や入浴時など、利用者一人ひとりの尊厳やプライバシーに配慮している。地元出身の職員が多いので、方言で話すことにより利用者が安心できる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 本人の希望などは大切にしている、自分で決定できるアドバイスをしたり、家族に相談し支援などをして頂く。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 本人の望んだり、自分で動けて一番に楽なペースで日内活動に合わせ生活支援を行う。屋外の活動は特に夜間睡眠を取りやすくし、気分転換に必要な支援の一つである。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 2ヶ月に1度くらいで理容師に来所して頂き散髪をしている、髪型を希望に合わせて馴染みの美容院にも出向く。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 自分で出来る事はやって頂き、介護者と家族と一緒に会話しながら食事を楽しむ、料理について昔話を聞いたり苦勞なども聞いている。利用者さんのテーブル拭きなどでも助かっている。	
			(外部評価) 利用者のリクエストをメニューに取り入れている。敷地内で採れた野菜が食卓を飾ることも多い。職員と利用者が同じテーブルを囲んで、楽しく食事ができるよう配慮している。月1回の外食も利用者の楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 季節の野菜を取り入れ栄養の隔たり、水分不足が起こらないよう、個人にあつた介護食にも職員全員で取り組み残菜の量などを参考に次の調理に役立たせている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 自分で出来る人は声掛け、出来ないひとは出来ない事だけ介助、義歯は週一、ポリデントはコップやハブラシで週3回消毒します、	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 紙オムツやパットを使用されてる方もトイレで排泄して頂く、排泄後は湯タオルで清拭します、常時に蒸しタオルが準備しています。	
			(外部評価) 日中は利用者の様子を敏感に察知し、トイレ誘導している。紙パンツを使用しながら、トイレで排泄できるよう支援している。便秘傾向の利用者は排泄チェック表に記録し便秘対策をしている。トイレ内は転倒防止や立ち上がり動作がしやすいように、手すり取り付けられ安全に配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 便秘勝ちな方は緩下剤を医師からいただき服用、自然排便のための野菜を取り入れた食事、水分、運動などを工夫しています。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 本人が入浴希望をされた時や、定期的にも入浴を楽しむことができるよう支援する。	
			(外部評価) 利用者が入浴を楽しみにできるように、入浴希望にはできる限り対応している。入浴が苦手な利用者には声かけや対応を工夫し、場合によっては全身清拭や足浴などで対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 一人、一人が必要な休憩や睡眠が取れるよう寝具、着衣調節などで落ち着かれて就寝出来る環境づくりを支援する。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 一人一人が使用している薬の効用を理解し服用の支援、服用後の症状の変化を見守る。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 各個人の今までの生活や希望に添うよう嗜好品や夕食時のお酒など、楽しみごと、気分転換など支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 気分転換を兼ね、皆で外食したり散歩につき添ったり、買い物につき添い本人の希望を叶えるよう家族、地域の人と協力し支援している。	
			(外部評価) 近くに児童館があり、イベントなどに頻回に見学に行っている。児童館の近くに花が栽培されており、散歩を兼ねて見に行くことを楽しみにしている。外食やドライブなど戸外に出掛けられるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 希望があれば一緒に買い物に行き、好きな物を買う喜びを支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 希望があれば電話や手紙のやりとりの支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 地域の季節事の行事などは、出来る限り参加し、毎日がマンネリ化しないよう生花や飾りつけ、絵画などを工夫している。	
			(外部評価) 明るいろビングにはソファが置かれ、それぞれが思い思いの場所でくつろぐことができる。懐メロを流すなど、利用者が楽しく過ごせるよう工夫している。外出時に撮った利用者の写真などを壁に飾っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 気の合う人を隣り同士にして話合いが出来る環境にして、穏やかに過ごせるよう工夫している。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 本人が使っていた物や好みの物を持ってきてもらい、居心地良く落ち着いて過ごして頂くよう工夫をしている。	
			(外部評価) 居室の窓からは田んぼが見え、季節を感じる事ができる。ベッドと布団、エアコンは備え付けである。利用者に合わせて畳床も用意されている。利用者が居心地良く過ごせるよう、家族の写真や使い慣れた物が持ち込まれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 一人一人の「出来る事」はなるべく、やって頂き「生き甲斐」や「喜び」に繋げ、自立した生活が送れるよう見守りしている。	